

令和4年6月23日

南の風特集号女子日本代表ワールドカップに向けてII

～ 恩塚ヘッドの目指すバスケットボール、就任からトルコ戦まで ～

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

恩塚ヘッドの考え方の続きです。

「これが実現できれば、みんながもっとバスケットを理解できるようになります。選手たちはいつ攻めればよいのか、ボールを持っているときに何をすればよいのかと悩んでしまう問題があります。それを解決するためのバスケットを女子日本代表が表現し、選手のパフォーマンスを高めつつ、これをスタンダードにしていき、自信を持ってコートに立てる選手を増やしていくことを目指しています。原則を元に、選手たちがより良いプレーを選択することを求め、固定したセットプレーも用意されていません。それに対して最初は不安に思う選手もいました。」

恩塚ヘッドは、「戦術=セットプレー」ではないことを強調し、「戦う力を高めるための術」と説いたことで、ワクワクするようなバスケットが表現でき始めている、と言います。

「戦う力を高めるために滑らかな動きの中で、こういう局面になればこういうチャンスができるので、そのチャンスを見逃さずにしっかりとつかめるようにしています。つかんだチャンスを生かす選手に対し、まわりの選手も自ら考えてサポートできれば、戦う力は必然的に高まっていきます。

さて、ここからは私が感じた女子日本代表のここまで戦い方を探ってみます。恩塚ヘッドからのメールによる推察も含まれます。

恩塚ヘッドは、ズバリ目標を『パリ五輪での金メダル』と話しました。日本代表として戦う以上、世界一しかないのだと思います。ただ恩塚ヘッドは続けて、「私たちは目標よりも大切な目的、理想を掲げています。それは、日本のバスケットボール界に夢を残すこと」と言います。具体的に言うと「すばらしいプレーだけでなく、私もなりたい自分に向かって挑戦していこう！ その挑戦する人が目の前にいたときに、私もやってみよう！ と思えたとしたら、私たちは夢を残せたという風に考えています。」と語りました。

それでは、恩塚ヘッドが目指すワールドカップまでの戦略について私の考えを書きます。

1 タイムシェアという考え方

ワールドカップは、10間で8試合という過酷な日程で行われます。恩塚ヘッドは「戦略とは戦いを略くこと=無駄な戦いをしない」と言います。ワールドカップ最終予選でも見せた、10名ローテーションが戦略の核となる気がします。恩塚体制になって、プレータイムのシェアは確実に進んでいます。オーストラリア遠征でも、今回のトルコとの強化試合でも取り組んだ、女子日本代表のスタイルの根幹となる、前から仕掛ける（マンツーマンプレスとゾーンプレスの使い分け）ディフェンスを40分間継続するには、プレータイムのシェアは必要不可欠になります。

そして前から当たるディフェンスを続けることで、前半から相手の体力を削ることができれば、後半を有利な展開でプレーできます。そのためには誰がコートに立っても短い時間の中で、全力でやることが重要なポイントです。プレーの理解力とコミュニケーション能力が求められることは言うまでもありません。